

# まちから、ちから。44

くらし・まちづくりコーディネーター  
ジャーナリスト 齋藤 喜以子



「地域リビング プラスワン」の仲間たち



高層住宅が立ち並ぶ大規模な「高島平団地」

## 地域のリビングのように日常をシェアし 誰もが安心して暮らせるまちに

### NPO法人ドリームタウン

(東京都板橋区)



代表の井上温子さんは、26歳の時に無所属で区議会議員に立候補し初当選。以来、草の根のNPO活動と議員の両面から、安心して暮らせるまちづくりに日々奮闘

大規模団地として知られる高島平団地(東京都板橋区)は、昭和40年代に都心部の住宅不足を解消するため、日本住宅公団(現UR都市機構)により建設された。入居者は当時20代だった団塊の世代が中心で、約1万世帯、2万9千人が一挙に暮らし始めた。しかし、入居から40年余りが経過した今、団塊の世代は60代後半となり、超高齢社会の縮図のようになっていく。この特殊な背景を持つ高島平で、高齢者のみならず、多様な人たちが、「地域のリビングのように日常をシェアする」新たなコミュニティづくりが、一人の若い女性を中心に進められている。

## 灰色の景色が花咲くまちへ

高島平団地の現状を伝える高島平新聞(平成27年11月15日号)によると、団地総数は1万170戸、1万5932人(内訳は、2丁目賃貸8287戸、1万1043人、3丁目分譲1883戸、4889人)で、高齢者世帯にお

ける一人暮らし率40・8%、高齢化率47・5%、外国人5・6%(887人)となっている。

今回登場の「NPO法人ドリームタウン」代表の井上温子さんは、大学3年の時から高島平地域のまちづくりに関わり、卒業後も大卒職員として足掛け5年、まちづくり活動を続けてきた。当初は大規模団地に興味を持て

なかった井上さんだが、次第に、一人ひとりの顔が見える住民とのつながりが生まれ、自分の特技や能力も生かせることに気付いた時、「それまで無機質で灰色に見えていた景色が、花咲くまちに変わった」と感じたそう。

こうして地域と関わるうちに、様々な課題も見えてきた。特に気になったのは、地域の中で孤立しやすい人たちの存在だ。高齢者だけではなく、一人暮らしの若者や子育て中のママ、共働き世帯の子ども、異国の暮らしに戸惑う外国人の姿も気になった。そこで、子どもからお年寄りまで、障がいのある無国籍を超えて集えるリビングのような交流拠点が必要ではないかと考えた井上さんは、社会起業の勉強会の開催を経て、平成23年「NPO法

人ドリームタウン」を設立した。

## 誰もが集える「第二のおうち」

地域の交流拠点はカフェや集会所、食堂とは異なり、「地域の第二のおうち」的なイメージ。その想いをかたちにするため平成25年、賛同する仲間たちと、常設拠点『地域リビング プラスワン』を団地の一角に開設した。

地域リビングは、核家族・共働き・一人暮らし・高齢世帯の増加などにより家庭内を支える力が低下し、課題を抱え込み孤立しがちな住民たちが、新たなつながりを持つことで安心して暮らせるよう、地域のセーフティネットの役割を担う。

運営は日常をシェアするという考え方に基き、「プラスワンファミリー」と呼ばれるボランティアが、それぞれの得意技を生かして

役割を分担し、活動を支える仕組み。食事の提供、子どもの見守りや学習相手、イベントや趣味の教室などを展開している。

ボランティアは、主婦・高齢者・現役世代・外国人といった多彩な顔ぶれで、協力内容としては、月千円または月3千円を支援する『家賃・運営費シェア』と、食事をつくる『ごはん当番』・店番をする『おうち番』・運営を継続的にサポートする『活動シェア』がある。

## 点から線・面への広がり

地域リビングへの参加は、家庭料理をみんなで食べる「おうちごはん」に会員登録し、食事をするところからスタート（1回500円）。食事は、総勢約40名の「ごはん当番」が交代でつくり、月20回、1回15食を提供する。昔お店をやっていた人やパン職人、栄養士、子

どもが巣立った後の主婦、料理づくりの楽しさに目覚め生きがいになった高齢者等々が腕を振るっている。

また、「ただいま！」と帰ってくる小中学生を温かく迎え、地域リビングに集う人たちと一緒に食事や会話をして、読み聞かせなども行う「おかえりごはん」（月8回実施）も好評だ。井上さんは、食事のサービスを受けた利用者が、受け手から担い手側に回ることを期待する。

活動の広がりとしては、平成26年に井上さんが提案し、区内15団体をつなぐ「いたばしコミュニティスペース連絡会」を設立。これにより、個々の活動が点から線・面へとつながった。今後は、地域コミュニティがコンビニのように身近にあつて、誰もが気軽に利用でき、安心して暮らせるまちづくりをめざすという。



団地の一角にある「地域リビング プラスワン」



ある日の「おうちごはん」。「みんなで食べると、おいしいね!」



それぞれの得意料理をふるまう「ごはん当番」さん



時にはハロウィンパーティや演奏会などのイベントも